

旅

人が旅先を決める時は、最初に抱いたイメージに左右されるものだ。海辺の小都市である小樽は、中国で人気がある。多くの中国人が小樽を知るきっかけは、岩井俊一監督の映画「Love Letter」(1995年)だった。

天狗山や船見坂の雪景色など、多くの美しい場面がこの街で撮影された。ロケ地訪問は、北海道を旅する主要な目的の一つだ。静かで郷愁誘う小樽運河は、もはや一つのブランドだ。中国人にとつて小樽は、ロマンチックな街なのだ。

一方、日本人はこの観光都市を、どんな切り口で読み解くのだろうか。歴史に多少の知識がある人なら、北海道の商業の中心地として繁栄したことを知っている。道内で初めて鉄道が敷設され、小樽市総合博物館の展示がかつての輝きを今に伝えている。運河は10年以上に及ぶ存廃論議を経て幅の半分が埋め立てられ、現在の姿となった。そん

王力勇
リョウ
ウ



イメージの多様性こそ魅力

な興味深い経緯を含め、運河は「北のウォール街」の栄枯盛衰を物語る。

堺町通り商店街には手作りガラスやオルゴールなど工芸品から海鮮、スイーツまで、さまざまな店舗が並ぶ。市内には100軒以上のすし屋があり、人口あたりの店数は国内有数だろう。多くの日本人にとつて、小樽はロマンチックというより、歴史やグルメの街だ。中国人が抱くイメージとは明らかに違う。

新

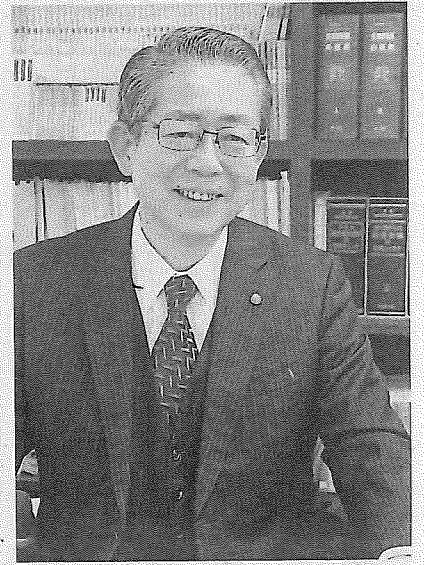
型コロナウイルスの流行で外国旅行はかなわぬ望みとなっているが、いつか収束すれば、積もり積もった旅への情熱が爆発的にあふれ出す。客が旅前に抱くイメージのみならず、小樽の多様性に気づいてもらえれば、小樽はもっと魅力的な街になるだろう。(小樽商大准教授 中国遼寧省出身)

黄綬褒章 業務精励(税理士業)

きくち よういち
菊池 洋一さん(60)

税理士=小樽市

中小企業支え34年



小樽市内の税理士事務所を経営し、34年間、地域の中小企業を支えてきた。2006年から15年まで道税理士会小樽支部長を務め、現在は支部顧問。受章に「身に余る光栄。出会った人全てに支えられた」と感謝する。

小樽商科大を卒業後、26歳で税理士登録し先代から事務所を継いだ。「親身に寄り添い一緒に問題を解決する」を信条に経営者の相談に丁寧に応じた。コロナ禍に見舞われた今年は収入が落ち込んだ事業者の補助金申請にも奔走した。

小樽商工会議所の税制労働委員会副委員長や市の代表監査委員など公的な役職も歴任。「税理士の仕事を通して地域経済を守りたい」と、後継者難に悩む企業の事業承継にも積極的に取り組む。伝票や帳簿に記載された「過去の数字」と向き合うだけでなく「未来を良くする仕事を続けていきたい」。

(宮本夕梨華)